

キーワード

手話、聴覚障害者、見やすさ、評価実験

研究概要

「手話の見やすさ」の重要性は、社会的に認知されているが、日本ではまだ研究されていない分野である。「手話の見やすさ」と建築室内環境との関係を定量的に把握し、その評価指標を明らかにすると共に、手話の視環境のガイドラインを確立していく必要がある。

講演会などの手話及び手話通訳は、手話送信者（講演者及び手話通訳者）からの一方的な伝達になるため、聞き手（聴覚障害者）の講演内容の理解度、疲労などの観点から手話が見やすいものでなくてはならない。「手話の見やすさ」と建築室内視環境との関係を定量的に把握するために評価実験を行った。

手話者から距離が遠くなるほど「見えにくい」と評価する人が多い。「体の見えにくい部分の評価」は、スクリーン・暗幕共に照度が低くなるにつれ、「顔の表情」「口の動き」と回答する人が多かった。

応用例・用途

手話の見やすさの程度（良否）は、視環境要素（手話送信者がその時照らされている明るさ、照明方法、照明による陰影、背景の壁、窓の色や位置、着ている服の色や柄など）に影響されると考えられるため、手話通訳派遣者、手話通訳者への注意喚起をすることで、聴覚障害者への負担を軽減することが期待できる。

